

平成4年(1992年)12月2日(水曜日)

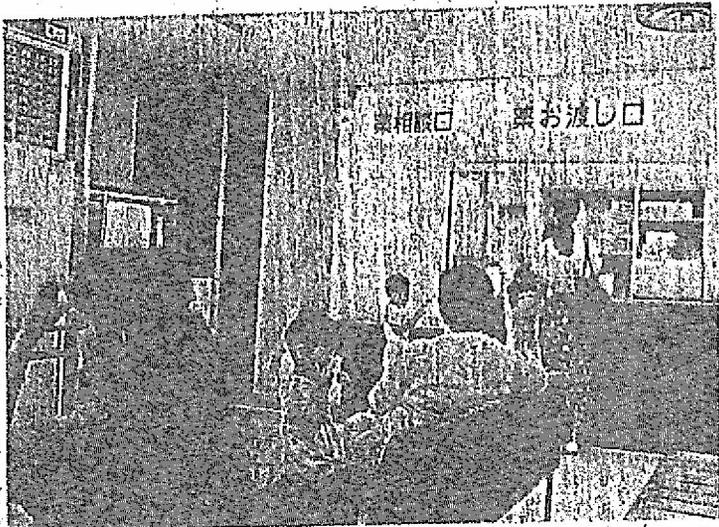
心臓に異常がないのに発作が

歩いていても突然、息苦しくなり胸が痛くなる。発作が頻りに「心臓発作ではないか」と気が動転してしまったり。心臓に異常がないのに「心臓発作」の可能性が強い。

この病気が「認知」され、世界的に知られるのは比較的最近のこと。1980年にアメリカで指摘された「パニック・ディストオーダー」と名付けられた。90年代に改定された世界保健機構

女性に多い「恐慌性障害」

呼吸困難や胸痛をの症状



心身症といわれるの「心」は、その中の「心」と考えられていた。いすれにしろ、社会の複雑化がもたらした現代病といえるだろう。

発作が突然やってくる

米田精神医学会のこの病気の診断基準は「発作が突然やってくるか、再発が起きるのでないかの恐怖が1カ月は持続する」「呼吸困難、めまい、心拍数の増加、身震い、発汗、嘔吐感、吐き気、非現実感、知覚異常、動作の恐怖、のどがつかえ、項目が見られる」

この基準で「恐慌性障害」となる。外出血、重傷になると、外出がままならない。そのほか、呼吸困難、胸痛、めまい、心拍数の増加、身震い、発汗、嘔吐感、吐き気、非現実感、知覚異常、動作の恐怖、のどがつかえ、項目が見られる。

突然、息苦しく胸が痛くなる。発作が頻りに「心臓発作ではないか」と気が動転してしまったり。心臓に異常がないのに「心臓発作」の可能性が強い。

神経科の診察を受ける治療

神経科の診察を受ける治療。呼吸困難、胸痛、めまい、心拍数の増加、身震い、発汗、嘔吐感、吐き気、非現実感、知覚異常、動作の恐怖、のどがつかえ、項目が見られる。